

祝 五條市制50周年記念式典



五條市は市制施行50周年を迎えました

ごあいさつ



五條市長
吉野 晴夫

五〇周年を迎えるに当たり今日までの歩みを顧みますと、昭和二十八年に制定された「町村合併促進法」の趣旨にそって、昭和三十一年一〇月一五日旧八か町村が大同団結し発足した五條市は、県下では七番目の市としてスタートを切り、さらに昭和三十四年南宇智村を、平成一七年西吉野村・大塔村を編入合併し、人口は約三万八千人、面積二九二平方キロメートルで、常に県南における政治・経済・産業・教育・文化並びに観光の拠点としての位置を占めて参りました。

この五〇年をまとめますと「困難な財政事情のもとで新しい市としての基礎固めに専念してきた期間」であり、充実した市民生活、ゆとりと潤いのある地域社会の中で、しあわせな暮らしを営むといった理想郷の実現には、前途なお遠くかつ険しいことを銘記しなければならぬと思えます。

すなわち現実の社会情勢は、戦後の急速な経済成長の成果として物質的な面において非常なレベルアップが図られました。交通や公害の面で生活環境が阻害され、また通信交通手段の著しい発達による便利さの反面、気ぜわしさや騒々しさが増し異常なまでの競争心理が人々をかりたて、ものの考え方や価値観に大きな変化が現れております。

しかし、この五〇年間陰に陽に市勢進展のためご尽力頂いた市民多数のかたがたのご芳情を偲びますとき、その熱意とご苦労は筆舌につくしがたいものがあります。

特に私が直接市政を担当致しましてから、寄せられました諸先輩・市議会・国・県のご援助・ご教示・更に温かい市民各位のご厚情は身に余るありがたいものがございます。

今後とも市政の将来を見つめ市民の皆様とともに検討し、その具体化に努力して参りたいと存じておりますので、なにとぞよろしく願います。

私は市制五〇周年の意義は過去の歩みを顧みるのではなく、来るべき次の世代に今日までの歩みをどう活かして行くかにあると思うのであります。

「地方自治は民主政治の基礎をなすもの」と言われておりますが、地域住民のかたがたの要望に添って真に住みよい社会をつくって行く道は、いつの時代でも常にさまざまな困難な矛盾が横たわっております。

私たちは今、かつて先人の経験したものと異なった厳しい試練に直面しておりますが、この試練を乗り越えて明日の五條市の進むべき道を切り開いて行くことこそ、現代に生きるもの責務であると存じます。

終わりに鑑み、今日まで市勢発展のためにご尽力頂きました先輩各位・市民の皆様のご熱意とご協力を深い敬意と謝意を表し、この機に更に融和と団結の意識を高め、市民が常に一体となつて子や孫が住んで良かったと誇れる街をつくるため、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様方のご健勝とご多幸を祈念しごあいさつと致します。